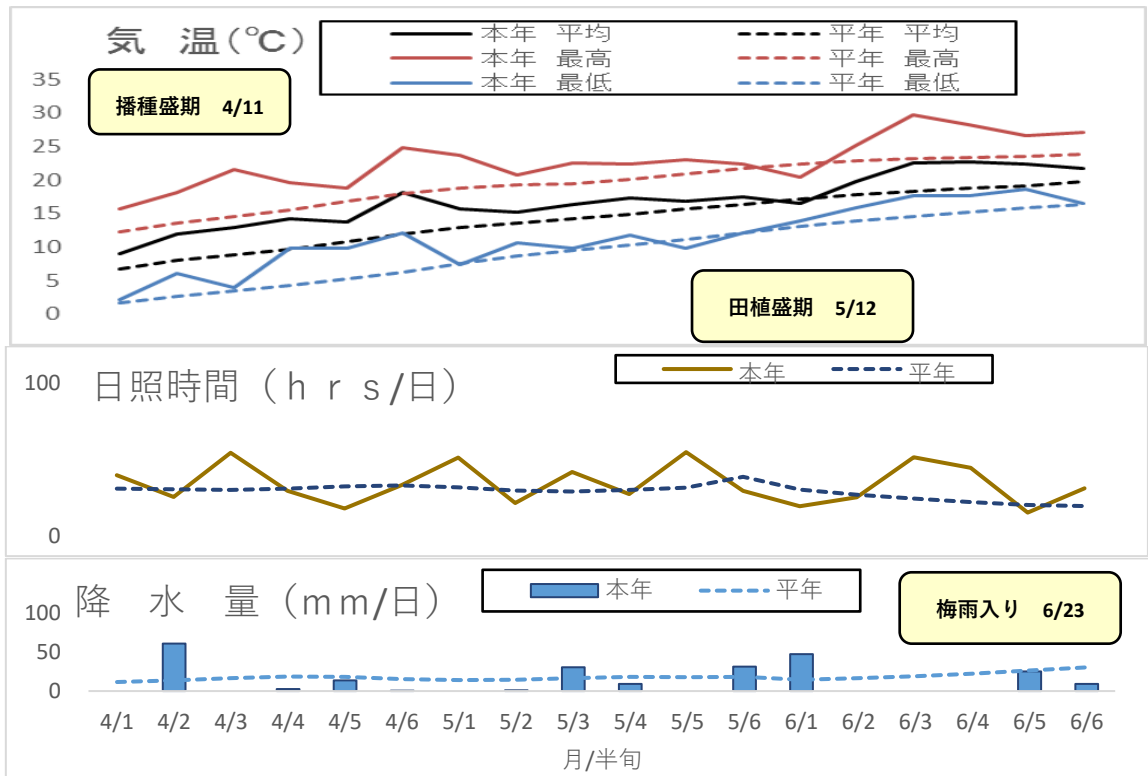


～有効茎数は確保 中生品種は幼穂形成期に 次の準備を！～

1 令和6年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



◆6月27日発表 東北地方の1か月予報(6月29日～7月28日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・ 向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・ 東北太平洋側の降水量は、多い確率40%、平年並み若しくは少ない確率30%。
- ・ 日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/29～07/28	10 (低) 10 (平) 80 (高)
		1週目 06/29～07/05	10 (低) 10 (平) 80 (高)
		2週目 07/06～07/12	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		3～4週目 07/13～07/26	20 (低) 30 (平) 50 (高)
降水量	東北日本海側	向こう1か月 06/29～07/28	20 (低) 40 (平) 40 (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 06/29～07/28	30 (低) 30 (平) 40 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 06/29～07/28	40 (低) 30 (平) 30 (高)

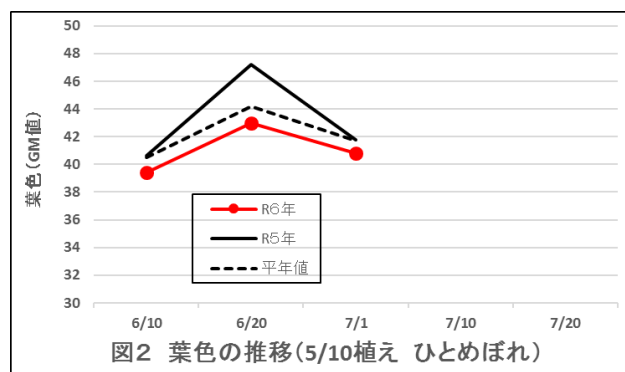
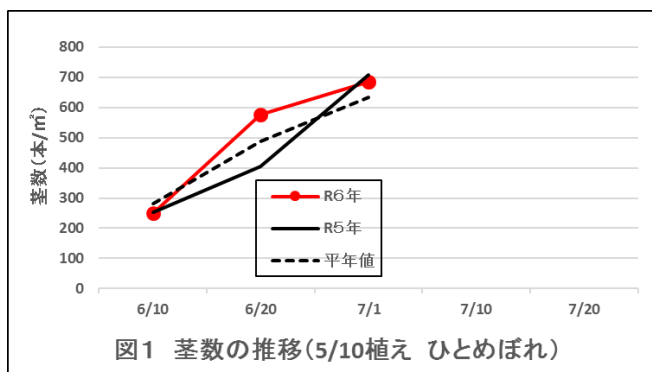
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（7月1日現在）

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は55.3cmで平年比112%，茎数は686本/m²で平年比108%である。
- ・葉色（GM値）は40.8で，平年よりやや低く，**前回調査時より低下している。**
- ・葉数は9.8枚で平年より0.3枚多く，生育ステージは概ね平年並みと見込まれる。

草 丈			茎 数			葉 色			葉 数		
本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
55.3	104	112	686	97	108	40.8	-1.0	-0.9	9.8	-0.1	0.3

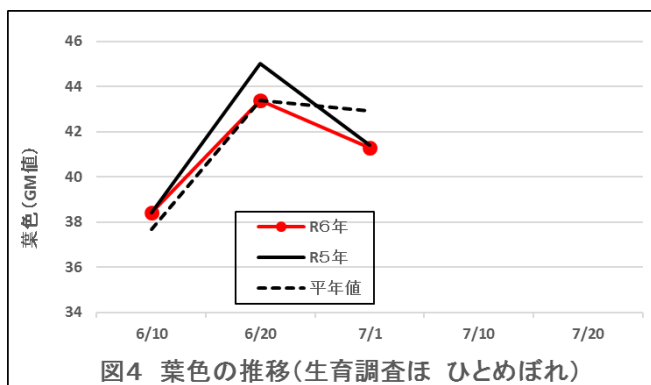
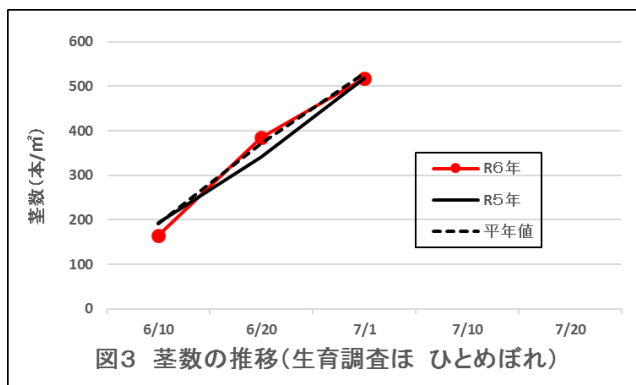


(2) 生育調査ほ（古川農業試験場及び各農業改良普及センター）

- ・品種別の草丈は52～56cm程度で，平年比107～117%である。
- ・茎数は467～563本/m²，平年比92～98%となっており，概ね平年並み（ひとめぼれ）である。
- ・葉色（GM値）は41前後で，前回調査時より低下（ひとめぼれ）している。

●古川農業試験場の「作況試験」や「生育調査ほ」の調査結果から推察すると，茎数は概ね平年並み，葉色は平年並み～やや低く，生育ステージは概ね平年並みと思われる。

品種名	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	54.9	102	107	518	100	98	41.3	-0.1	-1.6
ササニシキ	52.4	108	108	563	100	92	40.7	1.2	0.1
つや姫	55.7	105	117	467	87	95	40.8	-3.0	-3.9



- ・移植時期別（ひとめぼれ）の草丈は49～61cm程度で、平年比101～114%である。
- ・茎数は㎡当たり475～600本で、平年比94～104%である。
- ・葉色は40.8～42.3で、概ね平年並み～やや低下している。

●草丈は平年並み～やや長く、すべての移植時期で有効茎数が確保されたと思われる。

移植時期	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
5/1～9	60.8	111	114	600	109	104	40.8	-1.3	-2.7
5/10～19	52.5	96	105	475	93	94	41.7	0.8	-0.7
5/20～31	48.7	103	101	541	94	104	42.3	0.3	-1.3

(3) 幼穂の生育状況【参考】

- ・6月28日調査；石巻地方の「つきあかり（5月3日移植、ひとめぼれより2～4日程度早い品種）」で、幼穂長1～2mm（幼穂形成期）。
- ◆7月上旬には、「ひとめぼれ」や「ササニシキ」などの中生品種が幼穂形成期に入るものと見込まれる。

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・まもなく幼穂形成期（古川農業試験場「5月10日移植ひとめぼれ」の平年値は7月8日）を迎える。中干し終了後、出穂期までは間断かんがいはまたは飽水管理を行い、根の健全化を図る。
- ・出穂期までの間に低温が続く場合は、深水管理を行い、幼穂を保護する。

(2) 肥培管理

- ・茎数が不足気味のほ場では、穂数不足が懸念される。幼穂形成期の追肥が有効な品種は、茎数や葉色の推移を確認して幼穂形成期の追肥を行い、穂数の確保を図る。
- ・今年は葉色の低下が平年より早く、早めに肥料が切れる可能性があるため、適期に追肥を実施する。

◆品種ごとの追肥窒素量(kg/10a)は、以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1～1.5	2	1	-

◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

(3) 病害虫防除【宮城県 病害虫防除所ホームページより】

① いもち病

- ・東北地方は、6月23日頃に梅雨入りしたとみられる。
- ・宮城県病害虫防除所が公表した「発生予報第4号（6月24日発行）」によれば、葉いもちの「発生開始期は平年並みの7月第1半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）」による推定では、6月18日までに感染好適条件の発生が、県西部や沿岸部の一部で確認された（下表参照）。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/11	△	—	—	—	?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/14	—	—	—	—	—	?	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—
6/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/17	○	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●	—
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15~25℃, 前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

- ・梅雨に入り、葉いもちの発生しやすい時期になるので、早期発見・早期防除に努める。
- ・移植栽培ほ場において、残苗が残っている場合は、大至急処分すること！
- ・直播栽培など、箱処理剤を使っていない場合は、適期に水面施用剤を散布する。
- ・箱施用剤を施用した場合は、7月上旬～中旬以降に薬効が切れる。
- ・予防粒剤による「穂いもち」防除は、出穂前20～10日前を目安とする。

② 斑点米カメムシ対策

- ・発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、7月中旬を目安に草刈りを実施する。
- ・草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終わる。